## 大 学 祭 奮 闘 記

#### 

何でもじっと見たり聞いたりしているより,自分でやった方がおもしろいに決まっている。スポーツだってそうだし,音楽だってそうだし,麻雀・トランプ,ダンパやコンパなど言うに及ばずだ。"18金"映画なんか見ているよりやった方が断然おもしろい。ここに,大学祭を「やった」記録がある。去る11月3・4・5日,総合科学部生はどんなふうに大学祭に参加したのだろう。「参加した」なんて大げさなと思う人は,「遊んだ」でもいい。いかに大学祭を主体的にアクティブに「遊んだ」か? 若者が全身の情熱を傾けた行為は,時を越える。記録に価する。「飛翔」は当然これを特集する。したがって皆さん,いくら新年が来て「大学祭って結局一年前のことじゃない」とシラケたくなろうとも,決してこの特集を黙殺などしてはならないのです。

#### construction and a constructio

#### 総科の the アホ est は 53 生か!

大学祭が終わって一ケ月,今だにお祭りショックの虚脱状態から抜け出せない僕に「大学祭について何か書け。」と言われてもとうてい無理な話。

正直なところ"大学祭の事なんかもう何も思い出したくない"という心境なのです。

「大学祭で何かやりたいなア,少なくとも市中パレードだけはネ」と仲間と話したのがオリキャン当時それがどこでどうなったか"大学祭で53生の連帯を深めよう。というスローガンが暗黙のうちに出き上がっていた。

第一回(これが最初で最後であったが)の53生全体での討論集会を行なったのが、秋休み直前の9月30日。この時市中パレード、ファイヤーストーム、店出し4つ(フレンチドック、大学いも、金魚すくい、人間もぐらたたき)喫茶店、寸劇をやることに決定。ちょっとメニューが多すぎるかなって気もしたが127人大所帯やってやれない事はない。

"53生の連帯を深める" $\rightarrow$ "53生全員参加"という具合にベクトルがとび、店出し、喫茶、寸劇はサークル(グループ)別に行ない、市中パレード、ストームは少しでも多くの人に出てもらうため実委企画で行なうことにした。

それなのに準備段階で一番遅れたのが市中パレード とストーム,特にストームは枕木を運んできただけ プログラムも作らずぶっつけ本番という調子。

最初の目標が大きかっただけに,市中パレード参加者数30名強,ストームも前記の状態のため盛り上がりに欠け満足できる結果ではなかった。

とは言うものの市中パレード2位は絶対に威張って

いい成績だし、全員参加という目標には程遠かった が、大学祭を通じて学部内での友が少しでも増えた のはうれしいことである。

総科51生の「去年の大学祭で52生は馬鹿だなァと思ったが、今年の大学祭を見ると53生は52生以上にアホやなァ。」という言葉は僕達に対する最高の讃辞であろう。 (53生 足立)

# 市中パレード

11月3日晴れ、完成が危ぶまれていたフェニックスのみこしも昨日ようやく日の目を見て、後は本通りでバカになるだけ。みんなで一升ビンをまわしいざ出発。他の出し物に比べて総科の火の鳥は確かに映えていた。52生も加わって本通りではのりまくった。そして広大に戻って来た時には、フェニックスの頭はもげ、みんなもアルコールづけのような感じだった。しかし2位の成績が発表されると、一瞬みんなの心が一つになるのを感じた。あくまで「感じだったのかもしれないが僕はうれしかった。心の底から湧き出てきた喜びだった。大学祭の反省をすれ



ばきりがない。しかし祭りは祭りであって祭り以上の何かを見つけようとする事は無理があったのではないか、だが何をやるにしても希望はでっかい方がいい。傷つくことは若者の特権であると思うから。 (53生 中村正憲)

#### 金魚すくい&もぐらたたき

我々が金魚すくいともぐらたたきという何とも奇妙な取り合わせでやっと活動を開始したのは,大学祭まで約2週間という時点であった。その上,色々な不手際も重なって準備段階を全て完了したのは,何と大学祭の前日という有様だった。

さて、当日(4/4)の模様に話を移すことにしよう。ま ず金魚すくいの方は「この寒いのに金魚すくいなん て……」などという声を尻目になんとか利益に持ち 込んだ。一方もぐらたたきの方も予想以上にバカ受 けノ?だった。とりわけ夕暮れ時になると一杯はい ったおにいさんがもぐらをかわいがりに…?たびた び来られた。あの理性を失い我を忘れてもぐらをた たきまわす様は, まさに野性の証明であって何であ ろうか?ところで、我が総科の先輩方もたくさんお 目見えになった。某女性の先輩などは、「さ~あ! もぐらちゃん、女の先輩だからヘルメットなしのサ -ビスでいきましょ~う!」と後輩が並々ならぬ敬 意を表したにもかかわらず、手かげんなしのめった 打ちノ「オイノほんまに女か~?」「もぐらにも愛 の手を……」と避難の声声…などなど様々な場面が あり楽しい一日であった。総科の恥を一身に背負い (53生 肥後本芳男)

### お嬢さん ハレンチ・ドッグノ

「ハレンチドッグいかがですか」「ハイ、そこの一人でさびしそうなお嬢さんハレンチドッグいかがですか」この呼び込みをやりたい、ただそれだけでフレンチドッグをバザーでやろうと提案した。(誰ですか、僕をスケベなんて言うのは)こんな単純な理由で始めたものだから頭の中には何のプランもなくどうにかなるさ、少々赤字になってもいい、とにかくハレンチドッグと叫べればと軽い気持ちで計画をたてた。計画はすべてほぼ順調?に進み、残された課題は「うまい、大きい、安い」の「うまいまり味がどうなるか不安になった。というのも、試食会の時、お世辞にもおいしいと言えなかったからだ。ところが当日になると、二、三あまりおいしく

ないという声もあったが、おいしいといって一人で 二本食べた人もいて、これは総科生で義理だったか もしれないがとにかく嬉しかった。その義理のおか げかどうかわからないが売り上げも7時30分には売 切れるというすごさには驚いた。しかし、このため 忙しくて「ハレンチドッグ」とあまり叫べなかった、 これが僕にとってただひとつの悔やまれるところで ある。 (53生 長老)

#### 11. 4 大学祭の反省

いつの世の中にも、どこの大学にも、自然発生的な有志がいるもので、"芸術の秋"などと日本中猫もゴキブリも芸術色に染まり抜いている所へ、学問の砦までも"大学祭"など芸術色に染まり出したからどうにもガマンできず、11 P M で京都・鴨の河原で芝居をしている連中を放映していたのが契機で、総科53生で『てんぐ党』なる演劇組織を結成した。

さて、問題になるのが、総科53生大学祭参加に金魚の糞みたいに付着している『総科53生全員参加』のスローガンである。高校時代、ヘタはヘタなりに演劇をやった者(Who is he?)には、2日や3日の練習で上演するのはプライドが許さず、又他の人にもそれを強制するものだから『てんぐ党』には後から参加することができなくなってしまった。いかなる口実をつければ『てんぐ党』は、総科53の中で活動することができるか? ハムレットの心境で、3日3晩寝ずに苦しんだ結果、ついに見つけた、non考えついた。ヘタな口実をノ 『『てんぐ党』は総科53生大学祭参加に花を添えます。 『(口実になってないギャー)

『巨人の星』に返り咲いた星飛雄馬でさえも一歩譲るほどのhard な練習を積み重ねて克ち取った11月4日の勝利は、一生忘れないだろう。広大にこれ有りと言われる森戸道路を暴笑の渦の中に巻き込み、しかも、麻雀・パチンコ・女男に青春の日々を浪費している学生諸君に一撃を与えた『警官と学生』。落ちた100円玉に命を賭ける女』お竜』の生き様を生き生きと描いた『森戸100円闘争』。そして、演劇の、non 寸劇の砦、健忘症に悩む伊奈五郎を描いた『記憶喪失者』。どれを取ってもまだ記憶に新しい。あの拍手、笑い、感動が耳のそばで聞こえる。しかし、日が沈む毎に、しらけ鳥が赤く染まって西の空へ飛んで行ったのは、ただ一つ『てんぐ党』の歴史に残された汚点であった。

しかし、あそこまで『てんぐ党』が人気を得られ

たのは、ひとえに総科53生と先輩方の協力のおかげであると、『てんぐ党』員一同、深く感謝しております。どうも、ありがとうございました。

(53生 『てんぐ党』安居)

#### ファイヤーストーム 雑感

我々の学部祭というものがない今,大学祭でひと つ総科生みんなが参加できる企画を**ノ**ということで, 11月5日の夜,「第一回総科ファイアーストーム」 なるものを南グラウンドでやった。

さて当日。50数本の枕木の上に市中パレードのフェニックスみこしをのせ、点火したものの、どうもなかなかみんながのりきれない。第一回目ということに罪を借りればそれまでだが、主催者側の不手際で、参加者みんなに迷惑をかけたことをおわびしたい。しかしなんとかしょうと走りまわってくれたみんなのおかげで(特に恩田、長谷川両先輩の『巨人の星』には感激!)だんだんと盛り上がり、最後に「安芸の国」を肩を組み歌って、「我々の大学祭」の幕を止じたのだった。

私がこのファイアーを通して知ったのが、一つの ことを企画から実行へとやりとおすことのむつかし さであった。ふりかえってみて大声で成功**ノ**といえ ないのが心苦しい。

でも私たちには来年がある。54生を迎える来年夜, 今度こそ総科祭へむけてフェニックスの翼をはばた かせたいものだ。 (53生 伏見健一郎)

#### 52生的総括

今年もまた大学祭を2週間後にひかえたあたりから、昨年の60余名の参加をかち得た市中パレード 半地下における喫茶、自主映画上映など、あの興奮 とお祭り騒ぎを体験した52生の生き残り連中(?) が、なにやら動きだしていた。

2年になってコースに別れてしまい,各自が自分達の身の回りの事で忙しくなったためか,参加者の数は昨年に比べて著しく減少してはいたが,この一年間に,鍛練され彼等の中に蓄積されたアホさ加減は,昨年の比ではなかった。市中パレードでは53生制作によるフェニックスのみこし集団とともに,20数名が,「原発反対」「核武装化阻止」「むつ廃船」などのスローガンを掲げて行進しただけではなく,昨年の実績からくる余裕なのか沿道の市民の皆様に愛嬌を振りまき,本通りを掃除していくことも忘れてはいなかったのである(?)。

さて、ここで今年の大学祭で特筆すべき事例が2 つほどある。すなわち、いわゆる「総科乞食」の森 戸道路出現と、ステージ、ファイヤーストームなど 時と所を選ばず神出鬼没の活躍をみせた「The・ Entertainments」の存在である。後 者は、この春以来コンパとあらば常に出現し、その 年齢的ギャップも省みず、座のシラケを吹き飛ばし ては去って行く我等の味方である。 現在そのレパー トリーは少々マンネリ化に陥っており、今後の精進 が期待されている。そして前者は、今年ひょんな事 から冗談が本当になり、数名の恥と知性と女性を振 り捨てた (いや見捨てられた) 男達が発作的に, 森 戸道路にござを持ち出し座りこんだものである。「有 事立法粉砕」「総科生の大学祭参加支援」のスロー ガンをかかげ、寒さにふるえながらの奮闘で、彼ら は「大学祭を見に来た人には最も印象深いものだっ たはず」と豪語していた。

なにはともあれ、今年の大学祭も、無事に終了した。最終日のあのファイヤーストームに集っていた総科生や少数ながら他学部の人達は、何を考えながらあの燃え上がる炎を見つめていたのだろうか。 来年になればまた新たに54生が入学してくる。それからすぐに6月祭、また総科生の中から何かが起りそうである。 (社会52 彦)

#### バザー顚末記

幾人かの心に潜みし鬱勃たるパトスの火を直列に配し、何ボルトかの電圧を起こせば、そこには、何ワットかの豆電球が神々しく光り輝くかもしれぬ、という野望を抱いていたパトスの会の記念すべき初事業が大学祭のバザーであった。

何故にバザーを出す成行きになったかと言えば, これはもう、パトスの会がパトスの会たる所以でまったく衝動的一過性発作的な情熱が我々を動かした のであり、夜を徹して(パトスの会は夜を徹するの が大好きなのである)バザー進出計画が立案された のである。

その結果、月並みな、おでん・うどんの類いは、 我々の情熱に冷水を注ぐが如く安直な考えであると して排除され、もっと馬鹿々々しくはなばなしく、 衆目を浴びる出し物としてこれも衝動的に口をつい たのが、「てんぷら」という言葉であった。当然、 並の天ぷらでは、賛意を得られるはずもなく、果物 ・お菓子をはじめ、仁丹・納豆・アイスクリームな ど、およそ天ぷらとは縁もゆかりもない品々を選び これらを天ぷらとして広大生の食生活の多様化に貢献しようという目論見が成立したのであった。

しかし会長の意見で、一度本番前に作って食えるか否か、人間の味覚の限度に耐えられるかを実験してみなければならぬという事になり、胃腸の丈夫な人間を集めた試食会が二度行なわれた。そして、納豆、お菓子など人間の味覚では味わいきれないものは割愛され、アイスクリーム、野菜、果物の3コースの天ぷらが出品の運びとなった。

我々は銭もうけのためのバザーを出したのではない。我々の内なるパトスの声に従い―― ひらたく言えばやりたくなったから、やったのであり、そこには何ら他の動因の影はなく、ゆえに結果にこだわる事は我々にとって意味なき事であるという毅然たる態度のもとに11月3日を迎えたのであった。

当日 - 豆電球のかわりに貧相な裸電球がテントをかざり、今にも陥没しそうな机の上にコンロが設置され、その上で11月の冷気とコンロの炎にはさまれて死にそうな目にあっている天ぷら鍋には、油が満たされて、客が来るのを今や遅しとまちかまえていた。

寒空の中で我々がいかに悠然と流れてゆく時と対決していたかについて語るべき事はなく,ただテントをかたずける我々の心の中に八個の百円玉のぬくもりがあったという事を伝えておこう。(収益800円)

しつこく書くようだが、我々の行動は結果論では 述べられないのであって、いかに我々の努力が経済 的に報われなくとも我々自身のパトスに満足の灯を つけてくれたならば、それ以上何も言う事はないは ずなのだ。

[ ....

で、その後の打ち上げコンパで、誰がカラオケのマイクを離さなかったとか、打ち上げ麻雀で誰が役満「緑一色」に振り込んでくれたとか、かような後日談はつきないが、もはやバザー進出軍団という名目を離れ、人間娯楽探求族になりさがった人々の生き様を描くにはこの紙面は適当でない。しかし、これもまたパトスのなせる業であると、他人には言い分けしか聞えないような言い分もまかり通るパトスの会に敬意を表して筆をおく。(51生 久野和英)

# 休演宣言 1447以长成员出现的强烈

きまじめに。

------ 瀬川あづさ事務所の公演記録<del>------</del>

#### 51年11月大学祭

「熱海殺人事件」 作つかとうへい 52年6月六日祭

セールスマスやってくるぞ」

作むろたにたかし

52年11月大学祭

「戦争で死ねなかったお父さんのために」 作つかこうへい

53年6月六月祭

「郵便屋さんちょっと」

作つかこうへい

53年11月大学祭

「出発」作つかこうへい



それだけの話だ。たいしたことはない。

ところで(と話は唐突に始まる。),大学祭に観客 としてやってくるのはおもしろくないやろな、と思 うわけです。本番前のふっとあいた時間なんかに, 会館の二階のとこからグランドなんかみていますと: もう、どこからわいてきたんやろと思うようなたく さんの人が歩いておる。で、この中の何人がホント にワクワクしてるやろ、と思うと、これは芝居をや ってる方がずっとおもしろいしワクワクすると。か なり確信もっていえるのです。しかし芝居というも のが観客なしには成立しないものだとすれば, 当然 この人たちを観客としてひっぱりこまなくてはなり ません。で、この人たちに、私たちがどれだけのワ クワクを与えることができたか。それが問題となっ てくるわけです。しかし仮りに、私が観客であって、 事ム所の芝居をフラリと見に来たとしたら, どれほ どゾクゾクするでありましょうか。そりゃ多少はす るかもしれません。(ここらへんは願望)でも、 芝居をやるのと観るのと、どっちがスリリングかと

いわれれば、私はためらいなくやる方を選ぶでしょう。それほど左様に、芝居というものは、ますますもってシメサバのようにおもしろいのです。

しかしやる方が観る方よりダンゼンおもしろいというのは事ム所の芝居がその程度の芝居でしかないということにスギません。

「うらやましいですね,楽しそうですし。」 こんなこといわれるようになったらおしまいです がな。(現にいわれておるが。)

「芝居をやったっていえることだけでもいいです よ。僕なんか何もいえませんからね。そういうふう にヒトツのことにうちこめるってのは、いや一うら やましい。」

などといわれたら、即座に腹かっさばいて死して お星さまとなるべきでしょう。

「参加したことに意義がある。」

なんてね。これは芝居自体をホメようがないとに使われるテですから、どうせ自己満足のかたまりですがなと、私はユーウツになってしまうのです。だいいち、ヒトツのことにうちこむってほど完全燃焼してるわけじゃありません。(そもそも芝居なんで、そんなにやって楽しいものかいな。そりゃ、やっぱしおもしろい。こいつはホントーだ。でも、うらやましいなんていわれるほどおめでたいシロモノではないわい。あれはバカにされているのだ、ケーベツされているのだという説もあるしね。)「うらやま

しいかな・バンザイ青春」的な意味で、観客を喜ばせたり感動させたり(パ)しつづけるくらいなら、隣りの猫といっしょに川に身投げでもするよ私は。

しかしそうはいっても勝手に月日は流れるからな

なんていう人はガメラにでもくわれてしまえと思うのですが(ゴメン,決して本人ではありません。 そのうなんつうか,ま,コトバのアヤよ,コトバの。) 生まれついての軟弱さと優しさがあふれでてしまっ て,すぐニコニコしてしまいます。それどころか, ついこないだの公演さえ,茶のみ話にしてしまって る自分に気づいて,3万メートルのユーウツにおち てしまいます。

結局「鳴呼懐しの事ム所」になってしまうのでしょうか。 (事ム所の連中はみんなイイ奴ばかりだからナァー) いつまでも「楽しい事ム所」でいていいんですかね。

この問題を回避するために、私、来年の大学祭は どこかの映画館の暗闇に身を沈めていようと思うの ですが、どう思われますかな。

以上の嘘はすべて真実です。御静聴を感謝します, 皆さん。

(51生 瀬川あづさ)

